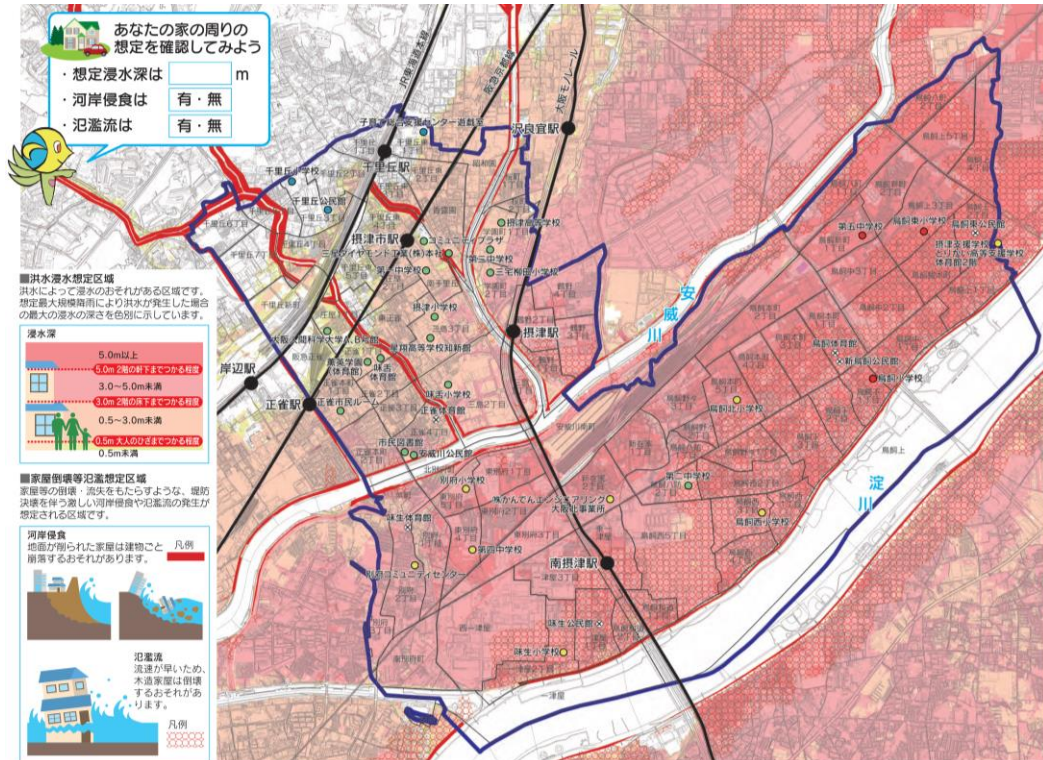


国交省の発表では、想定し得る最大規模の降雨（1000年に一度）により淀川が決壊した場合、三島地域において、広域かつ長期間の浸水被害が見込まれており、市町の区域を越えた広域避難が必要。令和2年に国・府・関係市町（大阪市、吹田市、高槻市、茨木市、摂津市、島本町）で構成するWGを設置し、避難に係る計画や避難先の検討を進めている。

1. 摂津市域のハザード

淀川・安威川の洪水浸水想定区域図（想定最大規模）の重ね合わせ



3. 現在の取組

▶ケーススタディでの課題検証

- 想定される浸水被害が広域かつ長期間におよぶ摂津市を対象に、万博記念公園に広域避難を行う想定をし、ケーススタディで課題を洗い出し、得られた知見をもとに地域全体や他の避難先に拡大。

○ 避難対象と避難先を固定した「タイムライン」のケーススタディで課題を洗い出し、徐々に全体の課題解決を行う。

■取組の詳細

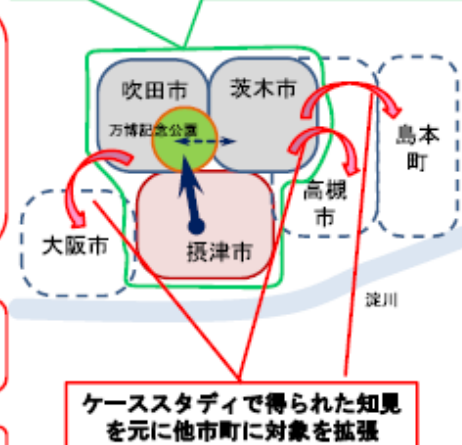
以下の想定「タイムライン」によるケーススタディを実施

- ・避難対象：摂津市（三島地区の6市町のうち最も浸水被害を受ける割合の大きい）
- ・避難先：万博記念公園（三島地区において最も大規模な避難先である万博記念公園）

- ・ケーススタディの結果得られた知見や課題を各市町にて検討
- ・タイムラインの対象を三島地区全域に拡張

- ・広域避難計画（三島地域・洪水編）への反映

タイムライン検討（ケーススタディ）対象

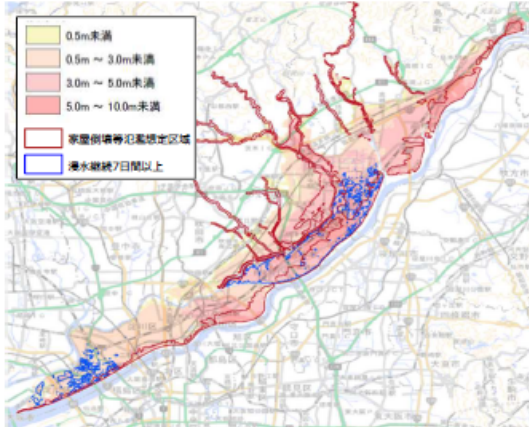


2. 広域避難のシナリオ

基礎データ整理を踏まえ、アンケート調査やワークショップの結果を踏まえ、シナリオを作成

- 淀川L2、安威川L2での浸水を踏まえ、長期浸水が見込まれる範囲の避難者（家屋倒壊及び7日以上浸水区域）が広域避難を行った場合を想定。
- 広域避難の移動は、アンケート結果から、**避難対象者の80%が避難**。手段は、**自家用車56.5%、バス（自治体支援）25.3%、電車（モノレール含む）23%**とし、それぞれの各市（移動手段により最遠点又は市役所）からの移動時間を考慮。
- 移動時間を踏まえ、自治体における避難体制の確保、避難所開設時間を考慮し、**広域避難におけるリードタイム案を設定**。
- なお、吹田市、高槻市、島本町は7日以上浸水区域では、**広域避難対象は0人となる**。

広域避難対象となる区域



移動手段別避難者数（7日以上帰宅困難者）

	避難者数（万人）								
	三島地域								
	合計	西淀川区	大阪市	淀川区	東淀川区	吹田市	摂津市	高槻市	茨木市
①広域避難対象者（基礎整理P5と同じ）	13.4	0.3	1.0	4.8	0	3.9	0	3.4	0
②避難者（①×0.8）	10.7	0.2	0.8	3.8	0	3.1	0	2.7	0
自家用車（56.5%）	6.1	0.1	0.5	2.2	0	1.8	0	1.5	0
バス（25.3%）	2.8	0.1	0.2	1.0	0	0.8	0	0.7	0
電車（23%）	2.5	0.1	0.2	0.9	0	0.7	0	0.6	0

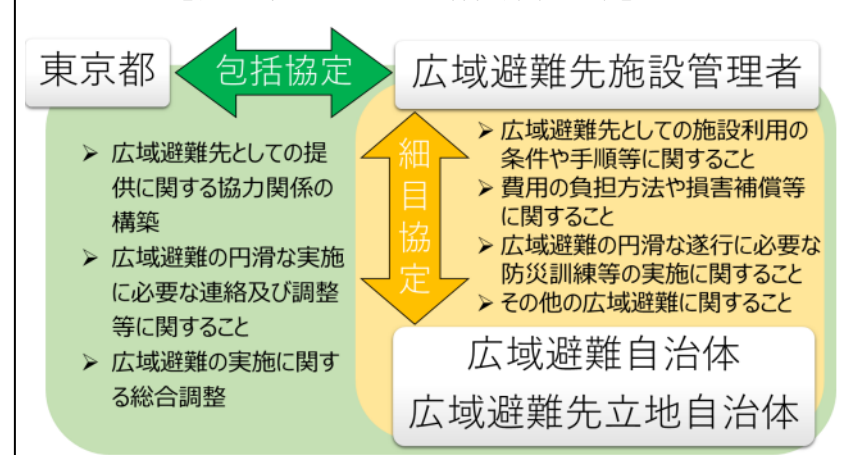
※案分、丸めの都合上合計値は一致しない

4. 今後の取組（協定締結）

▶施設利用に関する協定の締結

- 首都圏における大規模水害広域避難検討会が令和4年3月にまとめた「広域避難計画策定支援ガイドライン」等を参考に、令和6年1月に大阪府（危機管理室）と万博記念公園の施設管理者との間で施設利用に関する包括協定の締結。
- 令和6年度は、関係者間での協議・調整を経て、避難を希望する自治体と施設管理者との間で、広域避難に関する具体的な内容を示した細目協定の締結をめざす。

【協定締結のイメージ（首都圏の例）】



● 府管理の154河川全てについて、洪水浸水想定区域図の作成完了 ➡ 降雨規模ごとのリスクを踏まえ、避難計画やタイムライン等の精度向上が必要